

北海道・層雲峡観光特集

北海道 上川町

佐藤 芳治町長



観光は町の機関車的存在 「北の山岳リゾート」目指す 通年型キャンプ場を整備

上川町にとって観光はどんな位置づけですか。

佐藤 町の基幹産業は農業と観光だが、観光は機関車的存在であり、全てをけん引していく力を持っている。町の魅力、価値を高め、観光客を含めよう人を集めていくことを考えた時、観光を抜きにしては語れない。極めて重要な位置づけだ。

観光振興の実行部隊となるのが、層雲峡観光協会やDMCである大雪山ツアーです。活動をどう評価していますか。

佐藤 行政と観光協会、DMCの絆は強く、観光の在り方を巡って言いたいことを言える関係だ。首都圏や海外のプロモーションも足並みをそろえてやっていっている。2017年に層雲峡温泉の旅館・ホテルが入湯税の100円引き上げに踏み切った。その増収分約5千万円をDMCの事業費に充てている。それだけ観光を重視しているということ。

西野目 町の観光重視の姿勢に感謝している。われわれが活動をしていく上で、事業費を確保するのは大きな課題だが、町も支援してくれ、それを力に将来を見据えた事業展開をしている。町の期待に応えたい。

西野目 台湾のプロモーションは1977年からやっている。国のインバウンド誘致もあり、この5〜6年で順調に増えてきた。観光客の比率をみると、インバウンドと本州客で65%、35%が地元客となっている。しかし、コロナ禍で本州客はもとより、インバウンドも消滅してしまった。嘆いていても始まらない。しっかりと受け止め、終息後に備えていま何をやるべきかを考えている。

佐藤 コロナの影響を受けた観光事業者支援として、道の道民の旅行代金を補助する「どうみん割」を打ち出しましたが、町はどんな手を打っていますか。

佐藤 層雲峡の魅力を知らなかったため、広告・宣伝活動を展開している。情報発信不足は以前から感じており、この時だからこそ、積極的にアピールすべきだと考えた。

具体的には、

佐藤 テレビCMだ。観光協会から「町長自身がテレビで層雲峡の魅力をアピールしてどうか」との提案があり、6月から道内で放送している。時節柄、正面切っ「来て下さ」とは言いたくない。

西野目 自治体の長を前面に出したテレビを使った地域PRはあまり例がないと思う。どうせやるならインパクトがあるものをお願いしたい。町長に出演をお願いした。果たして引き受けてくれるか、どんな仕上がりになるのか心配だった。

西野目 道は道民や道内事業者に北海道スタイルを提唱し、安心宣言のポスターとして7項目を加えて、感染防止の指針「層雲峡スタイル安心宣言」を策定し、順守するよう呼び掛けている。

また、大型宿泊施設を中心に、お客さまが熱心な体調不良を訴えるなか、自治体の中には観光客のPRにPR検査を受けさせようという動きもあります。

佐藤 コロナ対策を適切に進めたいと、感染者を把握しておこなうことが極めて重要。受けたいという人には症状に関わらず検査をやるべきだ。

西野目 国はPCR検査はなかなか進まないが、自治体の中には観光客にPCR検査を受けさせようという動きもあります。

佐藤 コロナ対策を適切に進めたいと、感染者を把握しておこなうことが極めて重要。受けたいという人には症状に関わらず検査をやるべきだ。

スペシャルトップ対談

北海道の屋根といわれる大雪山国立公園は面積約23万3000ヘクタールに及ぶ日本最大の国立公園だ。アイヌの人々はこの地を「カムイミシタラ（神々の遊ぶ庭）」と呼び、敬っていた。層雲峡は柱状節理の断崖が20℃以上続く日本屈指の渓谷で、赤や黄色のあでやかに彩られる紅葉は荘厳な美しさを見せる。大雪山観光の拠点となる層雲峡温泉は旅人の体と心を癒やす。層雲峡観光のキーパーソンである上川町の佐藤芳治町長と層雲峡観光協会の西野目信雄会長（ホテル大雪）の対談を通して、層雲峡観光の魅力を探った。司会は論説委員の内井高弘。（町長室で）



層雲峡観光協会 西野目 信雄会長

大雪山国立公園からの発信 層雲峡温泉の新しい魅力づくり 独自のコロナ対策実施

層雲峡の観光入り込みの状況は、

佐藤 ピーク時の1999年には年間300万人ほどの観光客が訪れ、宿泊客も100万人を超えていた。ほぼ100万人ほど、宿泊客も50〜60万人にとどまり、漸減傾向になかなか歯止めがかからない。

西野目 層雲峡温泉は6軒の大規模宿泊施設を中心に、団体旅行を受け入れて発展してきた。10年ほど前から旅行形態が変わり、個人・グループ化の流れが顕著になっ

た。施設側も変革を迫られた。団体の減少をどう埋めるかの答えがインバウンドの受け入れで、すでに40年の歴史がある。

佐藤 層雲峡や町の魅力、価値を高めるためには外から人を受け入れるべきだと考え、19年度から町の魅力づくりを担う「地域おこし協力隊」を積極的に採用する一方、移住定住促進プロジェクトである「KAMUI WORK」を推進してきた。そうした芽が育ち始めた時に新型コロナウィルスが拡大し、大きな打撃となった。厳しい状況だが、反撃の力にならなければならない。早くインバウンド対応は早かったですね。

西野目 台湾のプロモーションは1977年からやっている。国のインバウンド誘致もあり、この5〜6年で順調に増えてきた。観光客の比率をみると、インバウンドと本州客で65%、35%が地元客となっている。しかし、コロナ禍で本州客はもとより、インバウンドも消滅してしまった。嘆いていても始まらない。しっかりと受け止め、終息後に備えていま何をやるべきかを考えている。

佐藤 コロナの影響を受けた観光事業者支援として、道の道民の旅行代金を補助する「どうみん割」を打ち出しましたが、町はどんな手を打っていますか。

佐藤 層雲峡の魅力を知らなかったため、広告・宣伝活動を展開している。情報発信不足は以前から感じており、この時だからこそ、積極的にアピールすべきだと考えた。

具体的には、

佐藤 テレビCMだ。観光協会から「町長自身がテレビで層雲峡の魅力をアピールしてどうか」との提案があり、6月から道内で放送している。時節柄、正面切っ「来て下さ」とは言いたくない。

西野目 自治体の長を前面に出したテレビを使った地域PRはあまり例がないと思う。どうせやるならインパクトがあるものをお願いしたい。町長に出演をお願いした。果たして引き受けてくれるか、どんな仕上がりになるのか心配だった。

西野目 道は道民や道内事業者に北海道スタイルを提唱し、安心宣言のポスターとして7項目を加えて、感染防止の指針「層雲峡スタイル安心宣言」を策定し、順守するよう呼び掛けている。

また、大型宿泊施設を中心に、お客さまが熱心な体調不良を訴えるなか、自治体の中には観光客のPRにPR検査を受けさせようという動きもあります。

佐藤 コロナ対策を適切に進めたいと、感染者を把握しておこなうことが極めて重要。受けたいという人には症状に関わらず検査をやるべきだ。

西野目 国はPCR検査はなかなか進まないが、自治体の中には観光客にPCR検査を受けさせようという動きもあります。

佐藤 コロナ対策を適切に進めたいと、感染者を把握しておこなうことが極めて重要。受けたいという人には症状に関わらず検査をやるべきだ。



「カムイと 共に生きる」をテーマにした「日本遺産」のPR活動の一環として、西野目信雄会長（左）と佐藤芳治町長（右）が握手を交わす。背景には「カムイと 共に生きる」のポスターが掲げられている。

そのための「層雲峡は頑張っている」

「感染対策もしっかりやっている」

「落ち着いたら来て下さい」という内容だ。性格上、なかなか「ニコニコ」できない。「硬すぎる」とも言われた。もう少し笑顔でいいかなと、反省している（笑）。

西野目 自治体の長を前面に出したテレビを使った地域PRはあまり例がないと思う。どうせやるならインパクトがあるものをお願いしたい。町長に出演をお願いした。果たして引き受けてくれるか、どんな仕上がりになるのか心配だった。

西野目 道は道民や道内事業者に北海道スタイルを提唱し、安心宣言のポスターとして7項目を加えて、感染防止の指針「層雲峡スタイル安心宣言」を策定し、順守するよう呼び掛けている。

また、大型宿泊施設を中心に、お客さまが熱心な体調不良を訴えるなか、自治体の中には観光客のPRにPR検査を受けさせようという動きもあります。

佐藤 コロナ対策を適切に進めたいと、感染者を把握しておこなうことが極めて重要。受けたいという人には症状に関わらず検査をやるべきだ。

西野目 国はPCR検査はなかなか進まないが、自治体の中には観光客にPCR検査を受けさせようという動きもあります。

佐藤 コロナ対策を適切に進めたいと、感染者を把握しておこなうことが極めて重要。受けたいという人には症状に関わらず検査をやるべきだ。

「カムイと 共に生きる」をテーマにした「日本遺産」のPR活動の一環として、西野目信雄会長（左）と佐藤芳治町長（右）が握手を交わす。背景には「カムイと 共に生きる」のポスターが掲げられている。

西野目 道は道民や道内事業者に北海道スタイルを提唱し、安心宣言のポスターとして7項目を加えて、感染防止の指針「層雲峡スタイル安心宣言」を策定し、順守するよう呼び掛けている。

また、大型宿泊施設を中心に、お客さまが熱心な体調不良を訴えるなか、自治体の中には観光客のPRにPR検査を受けさせようという動きもあります。

佐藤 コロナ対策を適切に進めたいと、感染者を把握しておこなうことが極めて重要。受けたいという人には症状に関わらず検査をやるべきだ。

西野目 国はPCR検査はなかなか進まないが、自治体の中には観光客にPCR検査を受けさせようという動きもあります。

佐藤 コロナ対策を適切に進めたいと、感染者を把握しておこなうことが極めて重要。受けたいという人には症状に関わらず検査をやるべきだ。

「ウイズコロナ」に対応し 層雲峡スタイル安心宣言

新型コロナウイルスの感染拡大を防ぐため、上川町と層雲峡観光協会、層雲峡温泉観光組合は6月1日、「層雲峡スタイル安心宣言」を出した。「道の「新北海道スタイル」に層雲峡スタイルを加えた、新たなコロナ対策」として、各宿泊施設が感染対策の責任を定め、従業員に対する周知を図ることや、ドアノブや手すりなど多くの人が触れる場所は最低でも1日2回消毒することなどを定めている。

特筆すべきは、感染者が出た場合に備え、広がりやすい、各宿泊施設の一部を隔離部屋にできるような徹底していることだ。「まずここに入ってきたら、医療機関の指示を仰ぐ」と西野目会長は強調する。幸い、町では感染者は出していない。対策を徹底し、安心・安全な層雲峡の旅を提供する。

「ウイズコロナ」に対応し 層雲峡スタイル安心宣言

新型コロナウイルスの感染拡大を防ぐため、上川町と層雲峡観光協会、層雲峡温泉観光組合は6月1日、「層雲峡スタイル安心宣言」を出した。「道の「新北海道スタイル」に層雲峡スタイルを加えた、新たなコロナ対策」として、各宿泊施設が感染対策の責任を定め、従業員に対する周知を図ることや、ドアノブや手すりなど多くの人が触れる場所は最低でも1日2回消毒することなどを定めている。

特筆すべきは、感染者が出た場合に備え、広がりやすい、各宿泊施設の一部を隔離部屋にできるような徹底していることだ。「まずここに入ってきたら、医療機関の指示を仰ぐ」と西野目会長は強調する。幸い、町では感染者は出していない。対策を徹底し、安心・安全な層雲峡の旅を提供する。

「ウイズコロナ」に対応し 層雲峡スタイル安心宣言

新型コロナウイルスの感染拡大を防ぐため、上川町と層雲峡観光協会、層雲峡温泉観光組合は6月1日、「層雲峡スタイル安心宣言」を出した。「道の「新北海道スタイル」に層雲峡スタイルを加えた、新たなコロナ対策」として、各宿泊施設が感染対策の責任を定め、従業員に対する周知を図ることや、ドアノブや手すりなど多くの人が触れる場所は最低でも1日2回消毒することなどを定めている。

特筆すべきは、感染者が出た場合に備え、広がりやすい、各宿泊施設の一部を隔離部屋にできるような徹底していることだ。「まずここに入ってきたら、医療機関の指示を仰ぐ」と西野目会長は強調する。幸い、町では感染者は出していない。対策を徹底し、安心・安全な層雲峡の旅を提供する。



ホテル大雪のフロントに置かれた「安心宣言」の盾

北海道・層雲峡観光特集

大自然に包まれ、疲れた心と体をリフレッシュ カムイミンタラは秋冬も充実

▼日本一早い、美しい紅葉



▲黒岳ロープウェイ



▲流星・銀河の滝



▲名所・大雨

層雲峡は日本一早く紅葉が訪れるという。まさに神の手が描いた天然の美(左上)。温泉街から黒岳ロープウェイを利用すると黒岳の5分目まで行ける。眼下の眺めは抜群(右上)。流星・銀河の滝は「日本の滝百選」に選ばれている。温泉街からも歩いて行ける(右)。自然の力に圧倒される大函(左)

▼氷瀑まつり

北海道三大冬まつりの一つ「氷瀑まつり」(来年は1月30日から3月14日まで開催)。七色にライトアップされた会場は日本夜景遺産にも認定されている(下)。紅葉のライトアップイベント「奇跡のイルミネート」。3回目の今年は10月11日まで開催される(左)



▲奇跡のイルミネート



▼天空のテラス

▼犬ぞり体験



▲層雲峡温泉



黒岳ロープウェイの黒岳駅に9月10日にオープンしたのが屋上テラスとカフェを備えた「大雪山黒岳ネイチャーテラス」。黒岳の絶景が間近にみられる(左)。犬ぞり体験は北海道ならではの。自然と一体化したアクティビティだ(右)

層雲峡観光の拠点となるのが層雲峡温泉。大雪山国立公園最大の温泉郷だ(6月)